

令和5年度 江戸川区立第五葛西小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	(1)深く考える子(思考力・判断力・表現力豊かで未知の状況にも対応できる子) (2)仲よく助け合う子(実際の社会や生活で、人とのかわりを大切にすること) (3)すすんでやりぬく子(学んだことを人生や社会に生かそうとする子) (4)体をしようぶにする子(心身ともに健康でたくましい子)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○児童一人一人を大切に、豊かな心を育む学校 ○確かな学力の定着を保證する学校 ○教員同士が学び合い、支え合い、高め合う学校 ○家庭、地域と協働して教育活動にあたる学校 ○心豊かで優しい子 ○身体も頭もきたえる子 ○最後まであきらめずに取り組む子 ○いつも笑顔を決やさぬ子 ○児童一人一人を大切に、使命感をもって教育にあたる教師 ○互いに学び合い、支え合い、高め合う教師 ○児童、保護者、地域から信頼される教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>プログラミング教育をテーマ校内研究を進めたことで、情報機器を効果的に活用した授業を実施でき、児童が楽しみながら学べる授業の実践力が向上した。</p> <p><課題>校内研究やOJT研修を軸として教員の資質・能力の向上を図り、国語科教育の推進や学習指導の一層の充実を目指す。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実施や補習などによる指導の充実と授業力の向上	・教科担任制の導入 ・電子ドリルや東京ベーシックドリルの活用(家庭学習も含む) ・外部指導員と連携した放課後の補習 ・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実施	学年末テストにおける到達度80%以上の児童の割合+0.5% 教科担任による授業の実施…週1回 「ミラシード江戸っ子studyweek!」の実施…学期1回 放課後の補習(年35回)	A	B	・学年末テストの結果では、80%以上を達成できた学年、教科に偏りがある。学力の底上げが課題である。 ・高学年での教科担任による指導では、指導内容の充実を図ることができた。 ・タブレットスタディや学年に応じた自主学習など、新たな取り組みを始めることができた。	A	教科担任制を活用した授業を次年度も進めてもらいたい。授業力向上に向けて、外部指導員と連携した放課後の補習など引き続き行ってほしい。 ・教科担任制をスムーズに行うために、よりよい時間割の組み方が必要である。 ・補習対象者の決定や低学年の補習については検討の必要がある。
学力の向上	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書科年間計画の実施 ・読書月間の実施 ・保護者ボランティアによる読み語り、図書館整備 ・探究的な学習を取り入れた調べるコンクールへの参加	読書月間…年3回 保護者ボランティアによる読み語り…年12回 調べるコンクールへの応募…全学年 探究的な学習についての教員研修…年1回	A	B	・読書月間、保護者による読み語りなど、計画的に行うことができた。 ・探究的な学習についても、教員向けに校内研修を実施することができた。	B	保護者ボランティアの読み語りを推進してもらいたい。引き続き、読書科の更なる充実を図ってください。保護者ボランティアによる図書館整備もお願いします。 ・各学年に応じた継続して調べられる課題を設定し、探究的な学習が進められるようにする。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・運動遊び「パワフルチユーズデー」の実施 ・なわとび月間やランニング月間の実施	「パワフルチユーズデー」…年20回 なわとび月間…2学期に実施 ランニング月間…3学期に実施	A	A	・パワフルチユーズデーを計画通りに進めることができた。 ・クラス全体で取り組めるので、運動が苦手な児童も、体を動かす機会となっている。	A	パワフルチユーズデーの運動遊びなど楽しんで、体力の向上を目指すことを望みます。休み時間もたくさん遊んでいるようで、基礎体力の向上が図ればよいです。 ・体育の授業でも、発達段階に応じた運動量を考えてながら、児童の体力向上を図っていく。 ・休み時間にも意識的にクラス遊びを取り入れていく。 ・来年度から始まるなわとびウォークなどを活用しながら、児童の体力向上に取り組んでいきたい。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援研修会の開催 ・特別支援夕会での情報交換(月1回) ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・都立鹿本学園との副籍交流	特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回 副籍交流…間接交流、月1回、直接交流、各行事	B	B	・夕会などで特別支援教室の運営に関する情報を共有することができた。 ・情報提供ができなかったこともあり、周知の仕方には課題が残る。	B	エンカレッジルームの整備、活用を進めてください。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実をお願いします。 ・伝える内容の年間計画など、入室児童の限度などを把握し、校内の体制を協力できるようにする。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	・いじめ防止に向けた取組 ・Q-Uの活用(家庭との連携) ・生活指導連絡協議会での情報交換 ・特別支援研修会の開催 ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・特別支援夕会での情報交換(月1回)	いじめ防止週間…年3回 Q-Uの実施と分析…年1回 生活指導夕会…年30回 特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回	A	A	・アンケートを通して、支援が必要な児童の悩みを聞き、指導に当たることができた。 ・Q-Uの結果を用いて、指導に生かすことができている。 個別に話を聞く時間を充分に取る必要がある。 ・教員数の不足により、エンカレッジルーム担当の時間に補教が入ることがあったので、改善が必要である。 ・SSWと連携をしながら、対応に当たることができた。	A	いじめ防止に向けた取組や学校、保護者、地域が協力し合い、話し合いの充実を求めます。エンカレッジルームの活用もお願いします。 ・学校生活アンケートやQ-Uの実態調査などを日常的な児童指導に生かしていく。 ・SSWなど、必要に応じて専門機関などとも連携を図っていきたい。 ・引き続き、「報告・連絡・相談」を徹底し、校内の共通理解を図つたうえで、学校全体として取り組んでいきたい。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校だよりや学年だより、年間行事予定や各種年間計画のホームページ掲載(随時) ・情報発信アプリetoruの活用(随時) ・学校公開・土曜授業の実施 ・学校公開・土曜授業の実施	ホームページでの情報発信(随時) 情報発信アプリetoruの活用(随時) 学校公開・土曜授業の実施(年4回)	A	B	・学校だよりや学年だよりは、定期的に滞りなく学校ホームページにアップロードすることができた。 ・学校日記のアップロードも、昨年度よりも多く発信することができた。	A	学校公開や土曜授業など学校の様子が見られる機会が増えてきた。ホームページやササポ会議などで、学校の様子を知ることができている。 ・引き続き、情報発信アプリを効果的に使って、段階的にペーパーレス化を図っていきたい。 ・引き続き、学校公開は状況に応じながら可能な限り幅広く情報発信を行っていく。
特色ある教育の展開	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・評価項目を整理し、学校評価の効率化、適正化を図る。	重点目標、取組、指標等の周知…5月まで 中間評価の周知…9月まで 外部アンケート等の実施…2月まで 最終評価の公表…3月	A	A	・学校関係者評価については適切な時期に実施することができた。	A	アンケートの方法はICTを使うことや定時の仕方もホームページにアップロードするなど、保護者がより回答しやすくなる結果が伝わったりもへたと変えていきたい。 ・アンケートの方法はICTを使うことや定時の仕方もホームページにアップロードするなど、保護者がより回答しやすくなる結果が伝わったりもへたと変えていきたい。 ・アンケートの方法はICTを使うことや定時の仕方もホームページにアップロードするなど、保護者がより回答しやすくなる結果が伝わったりもへたと変えていきたい。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携プログラム」による連携の充実	全教員が連携プログラムを理解し実施 部活動体験…年1回 授業公開…年1回	A	A	・ふれあいコンサートの実施、部活動体験、小学校での授業公開が行え、意見交換を行うことができた。	A	小学校、中学校の情報共有を推進してもらいたい。ふれあいコンサートや部活動体験など実施していただきありがとうございます。 ・中学校の改修などもあり、実施可能である連携のあり方について小中の教員で相談しながら、よりよいものになるよう考えていきたい。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	定時退勤日…年12回	A	B	・定時退勤日を予定通り実施し月の残業45時間を超えることがなく、概ね達成することができた。	A	月1回の定時退勤日など、働き方改革を進めてください。 ・働き方改革については、回数を精選するなどして、残業時間や休日出勤の回数を減らしていく。